広報 かじき

全ご家庭に，もれなく配布

第182号

46.4.1発行

発行　鹿児島県姶良郡加治木町役場

編集　総務課文書係

印刷　吉屋印刷所

野に山に花

柳ばし　また桜ばし
春の水　牧笛郎

▽…桜、菜の花、たんぽぽ…野に山に花の季節がやってきました学校や官庁などは新年度。

▽…町の新年度予算も決まり、より躍進する年…として一般会計予算も六億一千七百万円の大台となりました。

▽…いってきまあす…」新しいランドセルを背負って家を出る一年生。このときのよろこびと感激は、親も子も一生わすれられないものです。

▽…五日から「春の交通安全運動」が始まります。新入学、園児たちが安全に通学、通園できるよう、みんなで見守りましょう。

▽…選挙の月、棄権はやめよう

川ぞいに咲いた菜の花（日木山黒川）

■メモ　人口……18.832　男……8.802　女……10.030　世帯……5.719　(3月1日現在)

施政方針を説明

より躍進する年に

都市計画や道路網の整備など五つを重点に

さる三月十二日に開会された昭和四十六年定例第一回の町議会において曽木町長は、新年度の一般会計および特別会計予算の提出にあたって、新年度町政執行の所信を表明しました。

施政の重点目標としては、都市計画や道路交通網の整備などの五項目を掲げ、公約したことをできるだけ具体化することとして、予算的にも可能な限りの配慮を加えているつもりである――と述べ、一般会計予算六億一千七百十二万円と二つの特別会計について、町政執行方針とあわせて予算内容を説明しました。

□　はじめに

新年度予算について、私はまず国、県の行きかたを見きわめ、本町の過去および現況をよく把握し一般町民のかたがた、ならびに議会のご要望等に耳を傾け、財源や緩急度など勘案して計画をたて、予算の編成にあたったわけです。

国の新年度予算は九兆四千百四十三億一千五百万円で、昨年との比較では一八・四パーセントの増となっており、県の今年度の予算は暫定予算で、昨年度と比較はできませんが、国の予算をみましても昨年に引続き、経済の持続的な成長と物価の安定、社会資本、社会保障などの充実を目標に景気に対し「機動型」に編成したと、されています。本町としても国、県の施策に応じて計画をたて、その方向を誤ることがないよう、昨年に引続いて躍進する年であらしめたいと念じて、かかった次第です

□　重点目標

今年度の重点目標として、私は十二月の選挙の際、公約申し上げた点をできるだけ具体化することとして

①都市計画や道路交通網の整備

②農業商工業の近代化への推進

③社会福祉の増進

④教育と体育の向上

⑤広域行政の推進

など、五本の柱を重点施策として予算的にも可能な限りの配慮を加えたつもりです。

■　道路交通網の整備

第一に道路交通網の整備について申し上げます。本町は、いよいよ陸、海、空の要衝として一歩をふみ出したわけですが、これらの施設の早期完成については、関係団体ならびに町民各位の絶大なるご協力をお願い申し上げる次第です。

先ず、九州縦貫自動車道については路線も確定し、さきほどご報告申し上げたように、用地買収も地権者の協力によって、さる三月六日調印を終え、いよいよ工事着工ということになりましたが、最後の二、三週間・関係者は不眠不休の努力をされました。この縦貫道の建設と関連して町道、農道、水路等の整備について、よく配慮をなし、必要な折衝や予算の措置は今後十分注意して行かなければならないと思っています。

また　交通量の増加に伴い、国道十号線のバイパスも着工されることになっていますが、都市計画とも、にらみ合わせ、本年度以降に具体的には実現を見込んでいます。

つぎに港湾改修については、四年目を迎えますが、今年は工事費として、さしあたり二千五百万円を見込んでいますが、加治木港は今後の重要性から甲種港湾の指定を受け、県において、これが計画は網掛川の河口左岸を、提防を南にのばして東側を埋立て、計画は変更されることになっていますので、予算はこれ以上に補正をなす要が見込まれます。本港が完成の暁は、姶良郡の表玄関として大いに活用されることを期待している次第です。

関連道路のうち、黒川地区の東西の横断道の整備について、事業所の協力を得て本年度から施行いたしたい。その他も今後の加治木町の発展の方向等をよく見きわめる計画を推進していくつもりです

また職員のうちに、都市計画係を設けて、万全を期したいと思っています。

■　農業、商工業の近代化

①…農業関係

つぎに農業関係ですが、農業の近代化について申し上げます。米の生産調整をはじめとして、農業の情勢は極めて困難な状況になります。

最近、農業者が農業に対する意欲が減退した感をうけています。ここにおいて企業的な農家の育成が急務だと思います。

これについて経営診断ならびに経営指導を重点的に実施し、また営農団地の形成に努力し、とくに楠原台地の野菜団地育成については、今後十分な経営指導を加えることとします。

農業構造改善事業で基幹作物としてすすめている養蚕、みかんについては、企業的農家に育成するため、複合型、ならびに専業型に分けて、それぞれ一定の目標に到達するため増反がなされる場合、補助金を出し、専門的な経営指導を加え、堅実な専業農家を育成したいと考えたわけです。

その他、自立農家ならびに後継者育成については、昨年に引続いて実施する方針です。養鶏については、いろいろ問題がありますが

利子補給については折角、議会では検討中でもありましたので、従来の指導方針を変更することなくいっそう力を入れて参りたいと思います。

今年から農業振興地域整備事業に着手いたすと思いますが、この事業は昭和四十四年六月に法律が成立し、同年九月から施行になっています。最近、急激な経済成長のために都市への人口集中と工業開発、交通網の整備はたいへん進みましたが、この反面、優秀な農地が無秩序に潰されたり農作業の非能率化や土地利用度の低下、または農業施設の破損、都市公害などの農業にとって、このましくない問題が次第に都市周辺から農村に波及してきました。これらの問題を解決するために本事業が実施されるわけです。

県が出しました長期ビジョンと本町の農業振興計画を基礎として最近の変わりゆく農業の振興地域を整備して、適地適産を主体に営農団地の育成が目的です。方法としては、町内の農業地域と都市計画地域との分類であり、はっきり線引きをすることとなります。実施の時点では、いろいろな問題が出てくると思いますが、加治木町農業振興地域整備促進協議会を設置して慎重に審議をなし、地域住民の意見をよくくみ入れながら、実施しなければならないと思っています。

米の生産調整については、四十五年度に引続き実施されることになりますが、本年度は昨年度に比し二・三三倍の四百九十トンが調整の目標であります。買上限度が七百九十八トンとなっています。本年は、とくに米に代わる転作をすすめるよう指導されており、本町もこれに従って、先日末、会議を開き、直ちに農家に相談して今後の対策を立てるということにしています。

農業基盤整備の重要性については、もう申しあげるまでもありませんが、本年も農道ならびに用排水路の整備については、予算的にも相当、増額し、でき得るだけのことをしたいと思っています。

西別府と小山田を結ぶ農免農道については、ご承知のとおり県および農政局のヒヤリングも終わり現在、農林省において検討中でありますが、機会あるたびに陳情も行なっていますので、ほぼ確定とみて差し支えないと思います。

②…商工業関係

つぎに商工業関係を申しあげます。本町の商工業については、関係者の努力と工夫により着々と実績があがりつつあることは、喜んでいる訳ですが、しかしながら現在本町の人口は一万八千八百人ということです。

昨年末の国勢調査で、五年前より四百人程度の減少です。県全体も十二万減少していますから、その率からすると、そう減ったとはいえないのです。企業進出や住宅をふやすなどして、人口確保により購買力の増をはかり、また商工関係団体と一体となり、発展を期したいと思います。

商工会、夏祭り行事にも相当、増額して助成あるいは補助をして進めていきたい。今年からとくに経営資金、店員さん、使用人のかたの福利厚生資金として、資金を商工会に貸付ける制度を設けたわけです。交通事情の変化や労働力などの理由から本町の商工会にも相当な問題が出てきますので、これらの支えを出して、商店の各位から経営が、あるいは従業員の福利厚生に十分、役立てていただき今後、商工業がますます繁栄することを期待しています。

■ 社会福祉の増進

社会福祉について申上げます。昨年から児童手当を町単独で実施して参りました。さいわい、国の児童手当に対する法律が通過しましたけれども、実施についてはまだ明確ではありません。そこで国が施行する段階では本町単独分はまた考えなおす要がありましょうが、本町も今のまま続けていくことにいたします。

次に本年から幼児教育の重要性のために西別府ならびに辺川方面の幼児を対象に、永原小学校内に児童館を設置して職員二名をもってあたらせたいと思っています。

これによって各地区に幼児教育の施設が、ほぼ整うことになりますが、幼児教育あるいは保育の率が確立されるものと思います。これは状況によっては小規模保育所に切替えることも考えています。この点は年度なかばで、そういうことになるかもしれないので、お含みを願いたい。小規模保育所は本年度から県が始めようとしたものです。定員は二十名から三十名の幼児を預かる保育所です。

つぎに老人対策ですが、本年初めから特別老人ホームも高井田にできまして〝寝たきりの老人〟の老人は助かっていると思いますが新年度は問題はちょっとありますが、来年度はベッド数を倍にふやすということが見込まれています

また従来、温泉の入浴券を差上げておりますが、国民健康保険からの支出を取止め、一般会計から支出することにしました。

なお、町営温泉の払い下げの希望者もあるようですので、よく検討してご高見を承りながら最後の断を下したいと考えています。

敬老年金については引続いて実施します。さらに国保会計で国保関係の八十歳以上の老人と満一歳までの乳幼児の医療費の町負担を考えました。老人の健康と乳幼児の健全な成長に資したいと思います。

衛生費については、予算的にも昨年に比し、相当額の増額をいたしましたが、環境衛生の向上については十分、努力いたしたいと思っています。

■ 教育と体育の向上

教育や体育について申し上げます。本町の教育は、関係各位のご努力により着々と、その成果をあげつつあります。ことは、喜びにたえないところです。予算的にも各学校の備品の整備等には、とくに予算の配慮を加え、先進地におとらぬ内容の充実をなし、学力、体育の向上と根性のある児童育成に一段の努力をしたいと考えています。

社会教育ならびに社会体育については関係者の努力により着々と実績があがりつつあります。ことは感謝にたえないものがあります。今年は、次の事項を重点目標にして努力いたしたいと思っています

社会構造の急激な変化に対応して生涯教育という新しい観点から社会教育の再検討が要請されています。かかる現状に立脚して本年度はとくに、町民憲章の精神を理解し「明るく豊かな郷土づくり」に主体的に推進できる協調性のある町民の育成と、町民ひとりひとりの生涯にわたる能力の開発をめざすことに重点をおき

①公民館活動の振興　②成人教育の充実　③青少年教育の拡充　④社会体育の振興　⑤新生活運動の推進　⑥文化活動の推進と文化財の保護管理　⑦視聴覚教育の振興

以上七つの柱をたてて重点的に、推進いたしたいと思います。

このような考えかたで、当初予算の編成をいたしたわけです。ことしの一般会計予算の総額は、六

億一千七百十二万四千円とし、昨年に比し一億七千五十三万一千円の増で三八・二パーセントの伸びになっています。

限られた予算の範囲内で町民の福祉を進めるため、最大の努力をいたすつもりですが、しかしながら財政的には健全財政を堅持しながら効率的に前向きの姿で、行財政を運営して参りたいと思っています。

□ 歳出

各論に入りますが、歳出について説明します。

□ 議会費

議会費ですが一千五百九十九万五千円を計上しています。昨年に比し三百四十五万円の増です。人件費および一般経費です。

□ 総務費

総務費として一億七千六百七十二万三千円を計上していますが、総予算の二八・六四パーセントになります。昨年に比し七千二百二十七万九千円の増です。

人件費ならびに一般経費ですが町内の美化などを考えて〝花いっぱい運動〟の予算も相当もりこんでいますし、財産管理費において総合グラウンドの用地購入費ならびに整地費として八千六百七十八万八千円を予算計上しています。場所は具体化しているわけではありませんが一応、町民の体育の場として具体化したいと考えているわけです。

□ 民生費

民生費においては、予算額六千六百七十六万三千円で、総予算の一〇・八二パーセントで昨年に比し四千五十四万一千円の増です。

増のおもなものは国民年金事務費が、昨年までは総務費の中に予算計上してあったものを、今年から民生費に計上したためです。

永原小学校内に児童館の建設をしますが、これが建築費と運営費に三百七十七万二千円を計上しました。

老人の入浴補助を五十万円計上していますが、今年から国民健康保険の予算計上は取止めたものです。そのほか敬老年金四十三万二千円、児童手当三十一万二千円、老人家庭奉仕員二名と心身障害者家庭奉仕員一名、計三名分の八十九万一千円を計上しています。

衛生費については、予算額三千六百七十七万三千円で五・九六パーセントを占め、昨年に比し一千百三十六万二千円の増です。

□ 労働費

労働費は四千二百七十四万二千円で六・九三パーセントを占めています。昨年に比し七百万三千円の増です。

失業対策事業は、本年度の吸収延人員は延べ一万九千五百人で、計画のおもなものは、今年は舗装を重点的に施行する方針です。

乳剤舗装で小山田線ほか十二線延長三千百メートルを実施し、防塵舗装は新町通りほか十八線、延長四千五百メートル。匂配の強い部分についてはコンクリート舗装三百メートルと町内一円の路面整備と側溝、暗きょを整備する計画です。

□ 農林水産業費

農林水産業費は三千三百二十万一千円で、予算総額の五・三八パーセントを占め、昨年に比し七百十万八千円の増です。

先ず農政関係ですが、企業農家の育成、自立農家の経営指導には関係団体の協力を得て実施していく考えです。

畜産関係について本町の家畜頭数は、乳牛一三四頭、肉用牛一、五二八頭、豚一、九八一頭、鶏六一、七二八羽で　生産額四億五千万円となり、年々増加の方向にあります。飼養戸数においては漸減していますが、一戸当たりの飼養数が増加しつつあり、規模拡大の方向に進みつつあることは喜ばしいことだと思います。

畜産の将来を考えますと、濃厚飼料を海外に依存し、飼料費の値上がりに対して販売品は横ばいのため収益が減少し、さらに多頭化による〝ふん尿〟処理など公害の発生が予想されますので、公害防止に努力したいと思っています。

家畜導入事業やグループ活動により家畜の改良、多頭化をはかるとともに自給飼料増産による生産費の引下げ、家畜衛生防疫、空胎検査、健康検査を実施して、畜産所得の向上に努力したいと思います。

農地費については、昨年に比し百二十二万二千円の増です。農道や用排水路の整備を行ないます。なるべく県単土地改良事業を取り入れて実施したいと思います。日木山の能仁寺橋の掛け替えも実施します。

地籍調査事業は、今年度は八年目になりますが、関係者の協力により順調に進んでいます。今年度は大字西別府のうち隈原、提水流伊部野地区四・四ヘクタールの調査測量を実施し、また四十五年度実施地区の面積測定ならびに四十四年度分の認証および登記を完了する計画です。

林業関係については新規事業として昨年、県で実施した調査簿にもとづき、間伐適期林、竹材生産適期林、タケノコ生産適期林のそれぞれ施業目的に合致した台帳を作成し、それによって適期作業の推進をはかりたいと思います。

また最近、木材業とくに杉材の不況の中で竹材、タケノコが農家所得の増加に役立っていますので各生産目的に合致した竹林の育成をはかるため、各地区にタケノコ生産展示林、竹林生産展示林を設置して三年間改良をし、その成果を一般竹林に普及したいと思います。

また治山工事については、計画どおり実施ができるよう配慮します。

水産関係については、今年の重点指導事項として加治木漁協の育成指導、浅草のりの養殖事業を企業的に育成する。そのほか生産性を高めるため養殖技術、栽培技術の向上指導を図りたいと思っています。

商工関係については、今年から新しい事業として経営資金、福利厚生資金として四百万円を商工会に貸付け、これを基にして商店の経営改善、福利厚生の改善に役立ててもらいたいと思っています。

また前年度に引続いて経営診断事業を実施し、経営状態を分析して健全な経営を確立して、本町商工業の発展に努力したいと思います。また商工会の要請に答え、商工係を一名増員して、商工行政の充実をはかりたいと思っています

□ 土木費

土木費の予算額八千二百三十五万円で一三・三四パーセントを占め、昨年に比し一千十五万二千円の増であります。

九州縦貫自動車道の着工に伴い町道関連側道の問題など、公団がわとよく協議して手おちのないよう、配慮を加えていくつもりです

市町村道整備事業で西別府線の改良を実施し、黒川横断線の整備は工場の協力を得ながら、さらに中郷橋の掛け替えを実施します。

その他、基地公園事業の継続実施、加治木港の改修、県単独事業

として県道有川、蒲生線の防塵舗装の要望、そのほか補修班を強化し、路面整備を積極的に実施するつもりです。

住宅関係については四十四年、四十五年に引続き、春日団地に一種十二戸、二種十二戸を建設し、住宅不足の緩和を計っていくつもりです。

□ 消防費

消防費の予算額は、二千八十一万三千円で三・三七パーセントを占めていますが、昨年に比し一千十一万七千円の増です。

広域行政の一環として、本年より消防組合を発足することになりましたが、これに対する負担金が増になります。

□ 教育費

教育費の予算額は九千八百二十万七千円で十五・九一パーセントを占め、昨年に比し三百二十七万八千円の増です。

ことしから新たに教育相談所を設置するための経費を予算化しています。この事業は、町内の幼児児童、生徒のうち、問題をもつこどもの教育上の諸問題を個々に調査、診断治療し、保護者や教師の指導方法、処理の仕方などの相談に応じ、これらのこどもの能力特性を開発し、本町教育の実をあげようとするものです。

そのほか、鎮守小学校の永原小学校への統合によるスクールバスの購入ならびに錦江幼稚園の増員による園舎増築に要する経費、教育内容充実のための教育器機の整備、児童の体位向上のための机、腰掛の購入など、配慮を加え、また、教職員の研修費の増額、柁城校の特別教室校舎の建築も計画しています。

学校統合を前提とした加中の家庭科や理科教室の改築については一応、危険校舎としては認められたが、その点数の関係で、これが予算がつくか、つかないか、ちょっと見当がつかない状況です。このような状況で本年度に今のところ当初予算では見送ったところです。さらに国や県の方と折衝して行き、いずれ今年でなくても来年は何とかなるという見込みです。

□ 災害復旧費

災害復旧費については、土木災害分として百八十三万八千円を計上し、四十五年度災害分として小山田線ほか四件の査定決定分と単独災害を見込み計上しました。

□ 公債費

公債費は今年度償還額三千四百一万四千円を計上しています。

□ 歳入

つぎに歳入について説明申し上げます。

▽ 町税

町税の総額を一億三千六百二万三千円を見込んで計上しました。これは前年度の同期に対し一千九百八十九万五千円の増で、約一七パーセントの伸びです。伸びを見込んだおもなものは、先ず町民税で前年より一千六十八万六千円を増額しました。

町民税については毎年、課税最低限の引上げが行なわれていますが、本年も現国会で、夫婦子ども五人の標準世帯の限度額を昨年より十二万円増額し、八十六万四千円とするため、各種控除引上げの法案が審議中です。

いっぱう所得の伸びは、給与等のベース改正等により全体として八パーセント程度を見込み算定した結果、前年より前記金額を増額して計上しました。

また、固定資産税は四十五年度に土地の評価替えを行ないましたが、これに伴う平年度の伸びと四十五年中に新築された家屋が百五十棟ありましたので、これに対する新規の課税等を総合して、前年度より四百五十万四千円増額計上しました。

その他電気、ガス税において需用の伸びを見込んで、二百二十五万円を、また、たばこ消費税を七十四万円、それぞれ増収を見込み計上しました。

▽ 地方交付税

地方交付税については、二億三千一百万円を計上しました。昨年の当初に比して四千七百万円の増です。四十五年度の実績を申しあげますと、し尿処理建設関係の交付税を差し引き、八月算定の普通交付税ならびに二月算定の再算定交付税を合わせて一億九千五百六十二万六千円です。これに特別交付税一千百五十五万三千円を加えると二億七百十七万九千円となります。この実績からして一一・五パーセントの増を見込んでいます

▽ 交通安全対策特別交付金

交通安全対策特別交付金を五十二万円、分担金および負担金は保育所の負担金ならびに心身障害者扶養共済制度加入者負担金四百二十六万円です。

▽ 使用料および手数料

使用料および手数料一千八百八十一万二千円は、条例に基づく福祉センター、公衆浴場、ホイルトラクター、道路占用料、住宅使用料、幼稚園使用料、塵芥収集手数料および住民課窓口で取扱う諸手数料その他です。

▽ 国庫支出金

国庫支出金五千六百八十四万九千円、県支出金一千五百五十六万六千円は、それぞれ事業に基づく額を計上しました。

▽ 財産収入

財産収入八十八万八千円は、土地、建物の貸付け収入ならびに利子配当金です。

▽ 寄付金

寄付金三百五十万二千円は、柁城校の特別教室新築工事の寄付金三百五十万円その他です。

▽ 諸収入

諸収入を三千九百三十五万九千円見込み、繰越金を二百二十四万四千円見込んでいます。

□ 町債

また、町債を一億四百十万円見込み、四十六年度事業で起債対象となるものについて、年度の充当率で見積り計上しました。

縦貫道の用地買収 三月六日に調印

加治木地区内の九州縦貫自動車道三・三キロの地権者（委員長福村厚行氏）では、県が示した買収価格を了承、三月六日県庁、知事室で買収交渉の覚書に調印し、県民や関係者をホッとさせました。

用地買収には、一月初め県が示した価格に地権者側は不満で、その後、県は二次、三次、遂に四次案まで示し交渉に当たったが不調

そこで町長と福村氏は最終的な努力をいま一度と、県と交渉の結果、県もこの交渉に最後のハラをきめ、さらにある額のアップを示したので、地権者側でもこの努力を多とし、早期着工の必要性を認識して、この調停案に応ずることとなり、調印となったものです。

100年近い歴史を閉じる

4月からスクールバスで永原小へ

いよいよ閉校最後の校歌を歌う児童たち

町内の辺川にある鎮守小学校では、三月二十五日午後二時から同校の講堂で、校区民や来賓など二百五十人が参加して、閉校式が行なわれました。

鎮守小は九十三年前、明治十一年一月、元庄屋（現在の区長にあたる人）の事務所で始まり、鎮守小学校と命名され開校したもので以来、当地区ただ一つの文化の中心として親しまれ、かずかずの業績を残し、優秀な先輩たちを出しました。

昭和二十七年十月、町村境界変更によって旧山田村から加治木町へ編入され、二十九年には新校舎の落成などがあり、ベビーブームで児童数も年々ふえて、昭和三十三年度には百五十二人、六学級となりましたが、翌年から次第に減りはじめ、現在では三学級　四十四人と減って、当時の約三分の一になっていました。

閉会式で曽木町長は「三十数名のこどもたち、校長先生、現在の先生、校区の有志のかたがた、本校の先輩を一堂にして閉校式を行なうことは、さびしく、せつない感がする……」と、前おきして、「百年近い鎮守校の歴史を閉じますが、当校区民にとっては心のよりどころを失い、なにするすべもないことと思いますが、これも時の流れとお考えいただき、当地区のこどもたちが大成していくこ

（次ページ上へ）

高さ二メートルのキリンを作る

〔永原小〕

永原小の卒業生、三十三人（男十四、女十九）は、卒業記念にキリンを作って学校に残そうと、早速古材や丸太など持寄り、放課後や図工の時間を利用して作りました。

「こどもたちは大変、興味をもち、いっさい自分たちで骨組みやセメントをぬって作りました。四月から入学する新一年生へのよいプレゼントとなり、一年生が喜ぶことでしょう…」と担任の徳田勇先生は話していました。

ちゃのんばなし

ぼくらが作った卒業記念品

思い出の塔を全校児童で残す

卒業と閉校記念〔鎮守小〕

三月かぎりで閉校する鎮守小では、同校最後の卒業式が行なわれました。

全校四十四人の同校では、こんど十人（男四、女六）が卒業しましたが、学校がもうすぐ閉校になるので全校児童で作ったものを残そうと、校区を流れる川から、みんなで石を運び、積みあげて、卒業と閉校の記念に「思い出の塔」を作りました。

この塔の中には、全校児童の写真や図画、作文など、いろんな資料も含めてカプセルに入れて、向う十年間、保管することとなりました。

十年後、この塔を作った卒業生在校生四十四人と福迫光穂校長先生やほかの先生がた全員が、再びこの鎮守小あとに建てられた「思い出の塔」の前に集まり、再会を約することになりました。

五、六年担任の羽毛克規先生は「今日の卒業式は私の将来にずっと残るでしょう。みんなで塔をつくり、こどもたちと十年後の再会を決めました。ナイショですが、あの中には五、六年生の成績表も納めてあります。二、三日すると閉校式でさびしいですが、また再び、この地で十年後こどもたちに会えることを思えば、さびしさも吹ッとびます…」と話していました。

こどもたちも閉校のさびしさはあっても「十年後の先生の顔がどんなに変っているか楽しみだ」と案外ほがらかに笑っていました。

塔を囲んで「10年はながいなー」

（前ページから）

とを念願し、明るいりっぱなこどもとなることを信じ、こどもの将来をたのしみにして、これからも応援していただくようお願いしたい……」と式辞をのべました。

町議会、歴代校長代表のあいさつのあと、福迫光穂校長先生や校区代表の田代俊夫さん、児童代表の大宮路勝行くんらがあいさつしましたが、三人とも直接の関係者とあって、あいさつもとぎれ気味で声にならない沈黙の場もあり、同席した校区民も思わず目に涙するかたを多く見うけました。

四月から児童たちは、町のスクールバスで約四キロ（鎮守校を起点）はなれた永原小学校へ通学することになります。

講堂からオルガンの音とともに
歴史は古き、この庭に
友と仲よく手を組みて
明るき直き心もて
学びの道をふみ行かん
若き我等の胸はなる
ああ　栄あれ　鎮守校

校区民、児童、先生など参列者全員で声高らかに歌う、最後の校歌が、静かな辺川地区に流れていました。

ぼくの学校はなくなったんだヨ

児童代表　大宮路勝行

閉校式というものは人間でいうと葬式でしょうか、あるいは結婚式でしょうか。葬式だと考えるのは卒業生、結婚式とお祝いに考えるのは在校生と、これから小学校に入るこどもたちです。私は卒業生だから両方のことを話したいと思います。

私の家庭は、ひいちいさん、おじいさん、おとうさん、そして私みんなこの鎮守小学校の卒業生です。親子四代にわたってお世話になったこの学校が、きょうを最後に鎮守という学校はなくなるのです。

私がこの学校もおしまいかなーと考えたのは、昨年の秋の運動会でした。四年生、三年生、二年生の短距離走がすんで、いよいよ一年生のカケッコがはじまります。「ヨーイ・ドン」走っているのは女の子がふたり。ふたりとも顔をまっかにして一生けんめいに走っています。私たちは「ガンバレ」と大声をあげました。そのうちにとてもさびしい気持ちになってきました。この学校のなかまは、どんどんへって行く。このままでいけば、どうなるのだろうか、そのときから私のこころの中に不安がうまれてきました。

そのうちに私たちの耳にも、この学校が正式になくなるという話しが入ってくるようになりました私も経験がありますが、友だちが少ないことは、どんなにさびしくまた、活気がないか私はよく知っています。

町の陸上記録会に行ったとき、ほかの学校は一種目に二、三人ずつ出場して、話しをしたり、元気づけています。ところが私はひとりです。まわりを見てもだれも知っている人はいません。もう走る前から負けているのです。胸がドキドキしてさびしかったことを。

あの一年生に私のような経験をさせたくないと思います。多くの友だちが、永原小と統合できるのだからよかったなーと思いました

ところが自分の立場になって考えました。この小学校を卒業した近所の先輩たちが帰ってきて私たちに聞くことは「いま学校はどうなっている。先生がたはどんな人がいるね…」ということです。なぜこんなことを聞くのですかと、たずねると「小学校のことが、なつかしいから」とこたえました。先生にしかられたこと、苦しかったこと、友だちに話すときの先輩の顔は、とおい昔のことを思い出して、うっとりとしています。

五年生のとき〝おかあさんの学校〟というのをならいました。おかあさんが、こどもをつれて自分の小学校につれて行って　昔の話しを、さもとくいそうにしてくれるのです。この勉強をしながら、私もおとうさんになったら自分のこどもをつれてきたいと思います

ところが「おとうさんの学校はなくなったんだよ」といって、こどもは信じてくれるだろうか。また社会に出て、弟や妹に学校のようすや先生がたのようすをきくことができない。いったい私はだれに話しをきけばいいのだろうか。

友だちは、自分のこうはいがいて楽しそうに学校のようすを話している。私にはこうはいがない。おまえの小学校はどこだと、きかれて「なくなったんだヨ」と正直にいえるだろうか。こんなことを考えると、とてもさびしいでも自分のことだけ考えてはいけない。

人数が少なくて授業は、ふくしき（復式）でなんぎをしたこと、野球をまんぞくにできなかったことや友だちの少ない思いを、これからの弟や妹に味わせたくない。

学校というところは卒業生のためにあるのではなく、これから勉強しようという人たちにあるのだと考えなくてはいけない

思い出は胸にしまうことができるが、勉強する学校は胸にしまえない。弟や妹たちのためにりっぱな先輩としてやっていきたいと思います。

鎮守小学校
さようなら　さようなら

魔よけの塔を立てる

〔中野小〕

門のそばに立てる児童たち

中野小学校では、ことし十三人（男十、女三）が卒業しましたが学級会で卒業記念にトーテムポール（魔よけの塔）を作ることにきめました。

父兄から高さ五メートルほどのシイの木を一本寄贈してもらい、児童たちは放課後や休み時間を利用して作り、学校全体を見わたす校門のすぐわきに立てました。

担任の木佐木健次先生は「デザインなど創作は、こどもたちにまかせました。りっぱなものができました。南方では魔よけの塔とされているようです。卒業生が学校を守るため校門のそばに立てようと、場所まで決めていました。

中野小も二年後は閉校になり、柁城小に統合と、聞いています。卒業生たちが、この魔よけの塔をどんな意味で、ここに立てようと決めたのか、こどもたちの気持ちがわかるようです…」と、作品の完成を喜ぶかたわら、さびしく話していました。

五十二人が就職

中卒就職者研修会

中学校を終え、すぐ実社会に出て働く人たちを励ます中卒就職者研修会が、さる三月十一日午前九時からセンターで開かれました。町内の三つの中学校から関東地区へ五人、中京地区十九人、京阪神地区十四人、県内十四人に就職する五十二人が集まり研修をしました。映画「職業への道」を観賞鹿児島市西田幼稚園長（元加治木中校長）木佐貫直行先生の「職場と若者」の講演がありました。

十一時から壮行会に移り、町長議長、職業安定所長、町婦人会長など「健康第一、たえず加治木を思い出し、加治木町民としてはずかしくない青少年として育ってほしい」と、就職者を激励しました町からは記念品を全員に贈りました。

学校給食も今日で最後となる。参加者全員で会食
――（センターホール）

就職者たちは、三月二十五日の出発を最後に、元気にそれぞれの就職地へ向かいました。

〃〃〃〃〃〃

香典返しを寄付

町社会福祉協議会へ

香典お返しのかわりに、ご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげます。

金額　ご遺族　故人

二千円　菖蒲谷　上村タツ子（父万四郎）
三千円　中福良　石原静喜（父喜太郎）
五千円　吉原　徳永洋子（夫文雄）
二万円　茶碗屋　猪俣定雄（妻幸枝）
五千円　楠園　山下了（母ケサ）
五千円　萩原　若松哲志（妻アイ）
一万円　諏訪町　小田原貢（妻セイ）
五千円　西反土　坂元エダ（二女静子）
三千円　中福良　石原五男（父静男）
五千円　本町　壱岐始利（母エノ）
五千円　中福良　岩屋ハルエ（夫厳）
一万円　弥勒　有馬カズ（姉荻野スメ）
一万円　長谷　緒方吉行（母ヨケサ）

特別寄付

二千八百五十円
加治木警察署管内少年補導員会
（一一〇番ブザーあっ旋浄財）

育英奨学資金へ

五千円　茶碗屋　猪俣定雄（妻幸枝）
一万円　諏訪町　小田原貢（妻セイ）
三千円　柁城校区婦人会

○　三月二十五日までの、ご寄付を掲載しました。

今月の納税

軽自動車税（全期）
固定資産税（第一期分）

随想 ⑰

新入学生、就職者へ しあわせを

曽木隆輝

三月下旬のある日曜、私は急用があってタクシーで鹿児島へ行った。運転手の×君に忙しいか…ときくと、彼はいま鹿児島まで行き帰ったばかりという。彼の話しはおもしろい。

「そのお客は妙な人でした。大阪のさる会社の社長さんと見たのですが、加治木駅から加治木高校の門口まで行って、校舎の写真を一枚とっただけで西駅まで送りました。変でしたが話しをきくと、この人の会社に加高出身者が数人いるが、みな優秀なのでどんな所か外見でもと、鹿児島に来たついでに見に来たと申しました」と。

私は加高のことしの卒業生の進学はすばらしかったが、君のお子さんは卒業ではなかったか…ときくと彼はおもむろに話し始めた。

「私の長男は本年卒業しましたが、おかげで九大へ合格しました私は大学までやる力はないのですが、長男が父ちゃん、僕は一生懸命勉強してきっと一度でパスするからとせがみますので：また次男は僕が大学を卒業し就職したら、面倒を見るからといって、三年間死にものぐるいで勉強しましたので、それではおれも、おまえの仕送りで月給は半分になる形だが、大いにがんばる。酒もやめるよといって受験させましたが、幸い合格しました」と語る。この親にしてこの子ありというが、この子にしてこの親ありとも思われて、私は何だか胸をジンと打つものを感ぜずにはおれなかった。奨学資金でもお願いしてみたら…というと彼はやがて子どもが苦労しましょうから、いま私が辛棒しますと答える。

いつの間にか車は磯公園にさしかかる。新しい洋服、新しい帽子の子どもたちが胸をふくらませてはしゃいでいる。新入学のよろこびに満ちあふれた様子。

この真新しい運動靴の純白がほころび始めた桜の花の下に、暖かい陽ざしをうけて、ひときわ目にしむ。

加治木の学校を終えてそれぞれ就職した少年たち、また新しく諸学校へ入学する子ども、学生たちへ限りないしあわせがあるようにと念ずるうちに、車は目的地へついた。